

供用時 熱回収施設稼働による大気質

[予測結果（長期平均濃度）]

【最大着地濃度地点】

項目		年平均値	日平均値の 年間98%値 または 2%除外値	環境基準等
二酸化硫黄	ppm	0.001040	0.003	0.04以下
二酸化窒素	ppm	0.005037	0.017	0.04以下
浮遊粒子状物質	mg/m ³	0.027040	0.064	0.10以下
水銀	μgHg/m ³	0.002219	-	0.04以下
ダイオキシン類	pg-TEQ/m ³	0.010840	-	0.6以下

供用時 熱回収施設稼働による大気質

[予測結果（短期高濃度）]

区分	ケース		大気安定度 不安定時	上層気温 逆転時	接地逆転層 崩壊時	ダウン ウォッシュ時	ダウン ドラフト時	環境基準等
	物質							
最大環境 濃度	二酸化 硫黄	ppm	0.0019 (0.0009)	0.0028 (0.0018)	0.0026 (0.0026)	0.0003 (0.0003)	0.0021 (0.0011)	1時間値が 0.1以下
	二酸化 窒素	ppm	0.0087 (0.0027)	0.0114 (0.0054)	0.0149 (0.0079)	0.0028 (0.0008)	0.0093 (0.0033)	1時間値が 0.1~0.2以下
	浮遊粒子 状物質	mg/m ³	0.0189 (0.0009)	0.0198 (0.0018)	0.0206 (0.0026)	0.0213 (0.0003)	0.0191 (0.0011)	1時間値が 0.20以下
	塩化水素	ppm	0.00117 (0.00089)	0.00207 (0.00179)	0.00292 (0.00264)	0.00054 (0.00026)	0.00138 (0.00110)	1時間値が 0.02以下

※()内は、最大付加濃度を示す。

供用時

熱回収施設稼働による大気質

- 排出ガスは、法規制よりも、厳しい目標値を満足させて排出する。
- 硫黄酸化物及び塩化水素は、乾式消石灰吹き込み又は重曹吹き込みにより除去する。
- 窒素酸化物は、燃焼制御によりできる限り発生を抑えるとともに、触媒脱硝装置により除去する。
- ばいじんは、バグフィルタ(ろ過式集じん器)により除去する。
- ダイオキシン類は、燃焼温度、ガス滞留時間等についてダイオキシン類の発生を防止する条件を設定のうえ管理を十分に行い、安定燃焼の確保に努める。さらに、消石灰等とともに活性炭を吹き込み、ダイオキシン類を吸着して、バグフィルタで除去する。また、触媒脱硝装置では、特定の金属を担持させた触媒により分解する。
- ごみ質の均一化を図り適正負荷による安定した燃焼を維持することで、大気汚染物質の低減に努める。
- 今後、法令等の改正により、新たに追加される物質又は新たな規制が必要な場合は、設計基準値を決めて、対応するものとする。

供用時 廃棄物運搬車両による沿道大気質

○二酸化窒素

予測地点	年平均値	付加率	日平均値の 年間98%値	環境基準等
	ppm	%	ppm	
地点 1	0.005550	2.50	0.016	[環境基準] 1時間値の日平均値が 0.04~0.06ppmのゾーン内 またはそれ以下 [千葉県環境目標値] 日平均値の年間98%値が 0.04ppm以下
地点 2	0.006227	1.80	0.017	
地点 3	0.004742	1.83	0.015	
地点 4	0.004937	0.63	0.015	

○浮遊粒子状物質

予測地点	年平均値	付加率	日平均値の 2%除外値	環境基準
	mg/m ³	%	mg/m ³	
地点 1	0.027061	0.02	0.064	1時間値の日平均値が 0.10mg/m ³ 以下
地点 2	0.027052	0.01	0.064	
地点 3	0.024026	0.01	0.058	
地点 4	0.024032	0.00	0.058	

供用時

廃棄物運搬車両による沿道大気質

- 廃棄物運搬車両が一定時間に集中しないように搬入時間の分散を行う。
- 対象事業実施区域周辺へ廃棄物運搬車両が集中しないよう、ごみを貯留し積み替えを行う中継施設を設置する。
- 廃棄物運搬車両の通行は、一般車両の多い通勤時間帯などを避けるように努める。
- 廃棄物運搬車両は、可能な限り最新排出ガス規制適合車を使用する。
- 不要なアイドリングや空ぶかし、急発進・急加速などの高負荷運転防止等のエコドライブを徹底する。
- 廃棄物運搬車両の整備、点検を徹底する。

水質

施工時

- 工事の実施による水質

供用時

- ごみ処理施設稼働による水質

【現地調査地点】



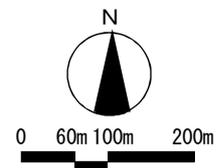
【調査結果】

[最大値]

調査地点	浮遊物質 (SS)	
	1回目	2回目
地点1	40 mg/L	15 mg/L
地点2	65 mg/L	340 mg/L
地点3	49 mg/L	18 mg/L

凡例

- 対象事業実施区域
- 河川、湖沼
- 水質調査地点
- 施工時及び供用時の排水ルート



○窒素、燐関連項目（四季調査）

単位：mg/L

調査項目	地点1	地点2	地点3	地点4
全窒素	3.8~7.0	7.4~8.9	5.8~9.5	10~11
全燐	0.009~ 0.021	0.009~ 0.10	0.094~ 0.21	0.018~ 0.034
硝酸性窒素	3.1~6.3	6.3~8.3	4.1~7.0	9.8~10
亜硝酸性窒素	0.05未満	0.05未満	0.05未満~ 0.15	0.05未満
アンモニア性窒素	0.04未満~ 0.08	0.04未満~ 0.07	0.06~ 0.77	0.04未満~ 0.35
磷酸態燐	0.005未満~ 0.007	0.005未満~ 0.035	0.005~ 0.10	0.007~ 0.015

施工時 工事の実施による水質

土地造成、掘削に伴う水の濁り

沈砂池を設置し土砂を沈殿させた後に公共用水域に放流します。必要な濁水処理を行い、放流にあたっては、濃度を測定し問題のないことを確認します。



予測結果

適切な濁水防止対策を施すことにより、濁水による影響は小さいと予測します。

工事に伴うアルカリ排水の影響

必要な中和処理を行い、環境基準内（pH8.5以下）になったことを確認した後に公共用水域に放流する計画です。



予測結果

適切なアルカリ排水対策を施すことにより、アルカリ排水による影響は小さいと予測します。

施工時

工事の実施による水質

- 工事中における雨水等による濁水を防止するため、千葉県宅地開発指導要綱等に基づき適正な貯留量を有する調整池（沈砂池）を設置して、一時的に雨水を貯留し、土砂を沈殿させた後に放流する。
- 沈砂池からの放流時に濁度及び水素イオン濃度を測定し、問題ないことを確認する。
- 堆砂容量を確保するために、必要に応じて沈砂池の堆砂を除去する。
- 工事計画の検討により一時的な広範囲の裸地化を抑制する。
- 台風、集中豪雨等が予想される場合には、必要に応じて貯留量を一時的に確保するための仮側溝や仮沈砂池の設置、造成面や法面へのシート掛け、土嚢による養生等の対策を講じる。

供用時 ゴミ処理施設稼働による水質

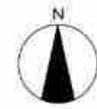
事業計画

- ・ プラント排水、洗車排水などの排水は場内で再利用
- ・ 生活排水や雨水のみを放流



凡 例

- 対象事業実施区域
- 河川、湖沼
- 水質予測地点
- ➔ 排水ルート



0 50m 100m 200m

【N/P比の予測結果】

区 分	現 況	予 測 結 果
小山堰	197	156

生活排水（窒素、燐）の流入による影響として、アオコの発生可能性について予測。アオコの増殖に好適な窒素と燐の比率（N/P比）は、13.5 : 1。

供用時

ゴミ処理施設稼働による水質

- 生活排水は高度処理型合併処理浄化槽により処理した後、公共用水域に放流する。
- 浄化槽の排水水質を維持するため、保守点検、清掃、法定検査を適正に行い、高度処理型合併処理浄化槽の維持管理に努める。

水文環境

施工時

- 工事の実施による水文環境

供用時

- ごみ処理施設の存在等による水文環境

【現地調査地点】

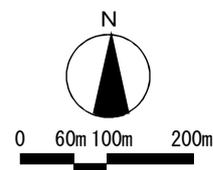


【調査結果】

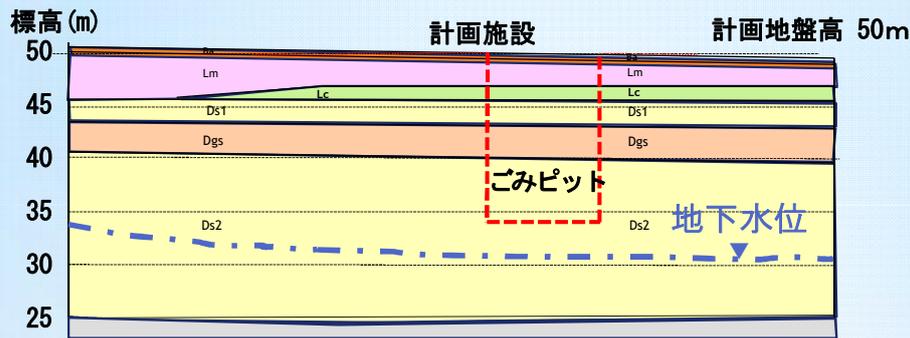
調査地点	地下水位（標高T.P. (m)）		
	平均 (地表からの深さ)	最小	最大
地点1	33.1 (約17m)	32.7	33.6
地点2	32.6 (約18m)	32.2	32.9
地点3	30.8 (約18m)	30.5	31.1

凡例

- 対象事業実施区域
- 地下水位調査地点



施工時 工事の実施による水文環境



土層名		記号
表土・人工地盤		Ba
新期ローム層		Lm
下 総 層 群	常総粘性土層	Lc
	第1砂質土層	Ds1
	礫混じり土層	Dgs
	第2砂質土層	Ds2
粘性土層		Dc

ごみピットの掘削深さは地下水よりも浅い位置となる計画です。



予測結果

工事による地下水位への著しい影響はないものと予測します。

供用時 ごみ処理施設の存在等による水文環境

ごみピットの深さは地下水よりも浅い位置となる計画です。



予測結果

地下工作物の設置による地下水位への影響はないものと予測します。

施工時

工事の実施による水文環境

- 工事にあたっては、適切な山留め壁の設置など可能な限り地下水位への影響が小さくなるような工法等を検討する。また、杭の施工にあたっては、地下水位への影響が極力小さくなるような工法等を検討する。
- ごみピットの計画にあたっては、掘削深さを小さくするよう検討する。
- 伐採後裸地化した場所は、地下水の涵養の観点から可能な限り速やかに緑化を行う。

供用時

ごみ処理施設の存在等による水文環境

- ごみピットの計画にあたっては、地下水位への影響が小さくなるようピットの深さを検討する。

騒音・低周波音・振動

施工時

- 建設機械稼働による騒音・振動
- 工事用車両による道路交通騒音・振動

供用時

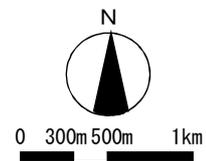
- ごみ処理施設稼働による騒音・低周波音・振動
- 廃棄物運搬車両による道路交通騒音・振動

【現地調査地点】



凡例

- 対象事業実施区域
- - - 市境
- · - 県境
- 主な道路
- ↔ 主な走行ルート
- 交通量調査地点
- 環境騒音・振動・低周波音調査地点
- ◎ 道路交通騒音・振動調査地点



[現地調査結果]

○環境騒音

単位：デシベル

調査地点	等価騒音レベル (L_{Aeq})	
	昼間 (6～22時)	夜間 (22～6時)
対象事業実施区域	54	37

○環境振動

単位：デシベル

調査地点	振動レベル (L_{10})		振動感覚閾値※
	昼間 (8時～19時)	夜間 (19時～8時)	
対象事業実施区域	25未満～36.3	25未満～28.1	55

※人が振動を感じ始めるレベル。

○低周波音

単位：デシベル

調査地点	G特性音圧レベル
対象事業実施区域	50.5～69.9

[現地調査結果]

○道路交通騒音

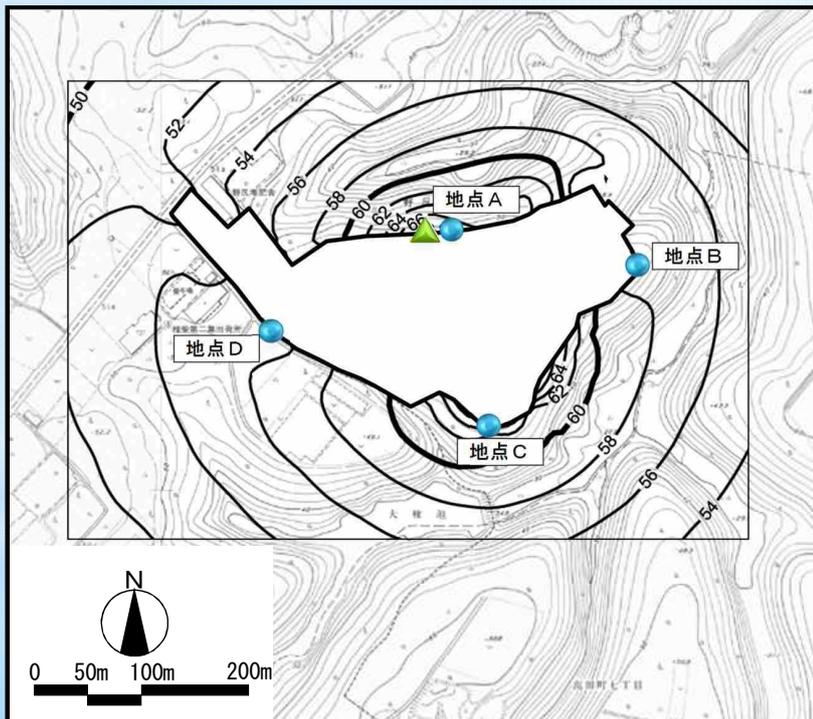
単位：デシベル

調査地点	路線	等価騒音レベル (L_{Aeq})
		昼間 (6～22時)
地点1	銚子海上線	68.3
地点2		67.3
地点3		67.0
地点4	市道1021号線	63.4

○道路交通振動

単位：デシベル

調査地点	路線	振動レベル (L_{10})
		昼間 (8～19時)
地点1	銚子海上線	42.7～50.4
地点2		37.9～45.9
地点3		42.3～48.4
地点4	市道1021号線	41.6～44.2

施工時 建設機械稼働による騒音


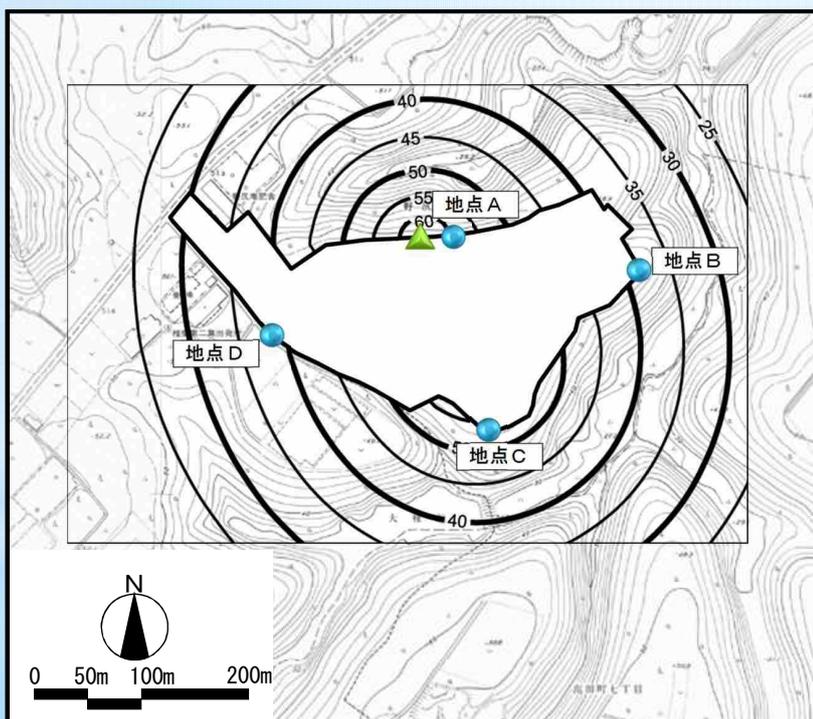
凡 例

- 対象事業実施区域
- 等騒音レベル線
- ▲ 最大レベル地点
- 予測地点

[騒音]

単位：デシベル

地点	予測結果	規制基準
最大	69	85以下
地点A	68	
地点B	57	
地点C	62	
地点D	56	

施工時 建設機械稼働による振動


凡 例

- 対象事業実施区域
- 等振動レベル線
- ▲ 最大レベル地点
- 予測地点

[振動]

単位：デシベル

地点	予測結果	規制基準
最大	65	75以下
地点A	59	
地点B	39	
地点C	51	
地点D	38	

58 騒音・低周波音・振動：環境保全措置

準備書
P7-182, 238

施工時

建設機械稼働による騒音・振動

- 建設機械は、低騒音型の建設機械を使用する。
- 周辺地域への騒音伝搬を防止するために、計画地の周辺に仮囲い(高さ3.0m)を設置する。
- 発生騒音・振動が極力小さくなる施工方法や手順を十分に検討する。
- 建設機械の集中稼働を避け、効率的な稼働に努める。
- 建設機械の整備、点検を徹底する。
- 不要なアイドリングや空ぶかしをしないよう徹底する。

59 騒音・低周波音・振動：予測結果

準備書
P7-194, 250

施工時 工事用車両による道路交通騒音・振動

凡 例

- 対象事業実施区域
- 市境
- 予測地点
- 主な工事用車両ルート

単位：デシベル

0 300m 500m 1km

地点②	予測結果	参考基準	増加量
騒音	67.6	70	0.3
振動	43.5	65	0.5

地点①	予測結果	参考基準	増加量
騒音	68.6	70	0.3
振動	47.9	65	0.5

地点③	予測結果	参考基準	増加量
騒音	67.4	70	0.4
振動	47.3	65	0.8

地点④	予測結果	参考基準	増加量
騒音	63.5	65	0.1
振動	42.7	65	0.2

